

8月11日(木)入山日

今年初めての「山の日」ということで、上高地で式典が開かれるとの情報があり、入山規制や交通規制があるかもしれないと事前情報でうかがっていた。

タクシー会社に片っ端から電話したが、予約は受けられないとの返答だった。

個人タクシーに掛け合ったところ、ダメ元で予約を受け付けてくれた。

朝4時に平湯温泉付近でタクシー業者と待ち合わせて、朝5時の釜トンネルゲートオープンと同時にスタート！とりあえず、ゲートは予定時間に開いたので朝一は通行規制がかかってない状態だった。



<式典の用意のテント>

5時00分過ぎに上高地に到着！用意もそこそこにスタートした。

都会の灼熱時刻とは違い、上高地の涼しい風を受けながら、順調に梓川沿いの遊歩道を速足で歩く。

5時50分に明神館付近を通過、6時30分に徳澤を通過、7時15分に横尾に到着。



<横尾に到着>

ここで二日分の水5リットルを補給する。遠くに屏風を望みながら少し休憩を入れる。

今まで何度も計画してきた屏風計画だが、天候などの理由で今まで挑戦できなかった屏風が目の前にそびえている。



<屏風を見て気持ちが高揚してくる>

5リットルの水を追加したザックは重かったが、速く屏風岩に取り付きたい気持ちの方が強い。岩小屋まで15分ぐらいで到着し、登山道から外れる。



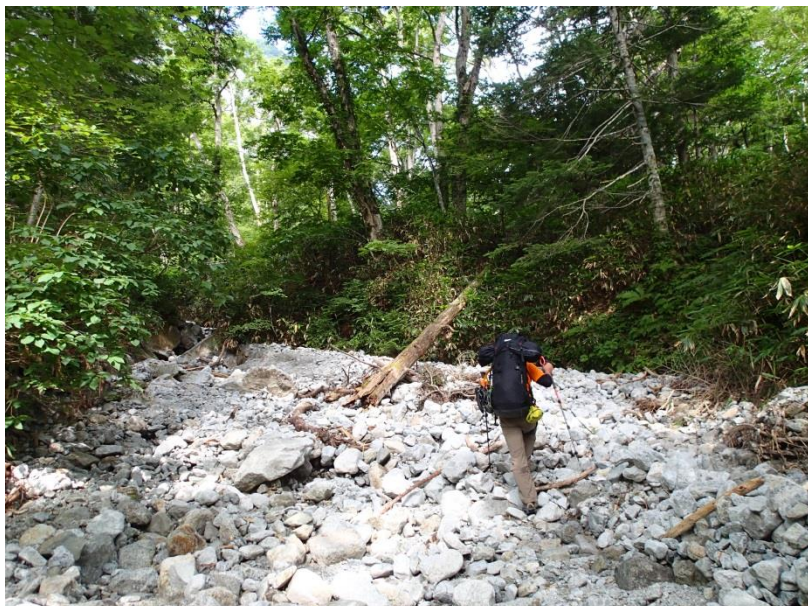
<水量も少なかったが、水は冷たい>

渡渉ポイントは分かりやすく、水量も少なく渡渉は問題なく行えそうだった。

靴を脱いで素足になって渡渉を行ったが、この時期でも北アルプスの水は冷たく、目が覚めるような冷たさだった。

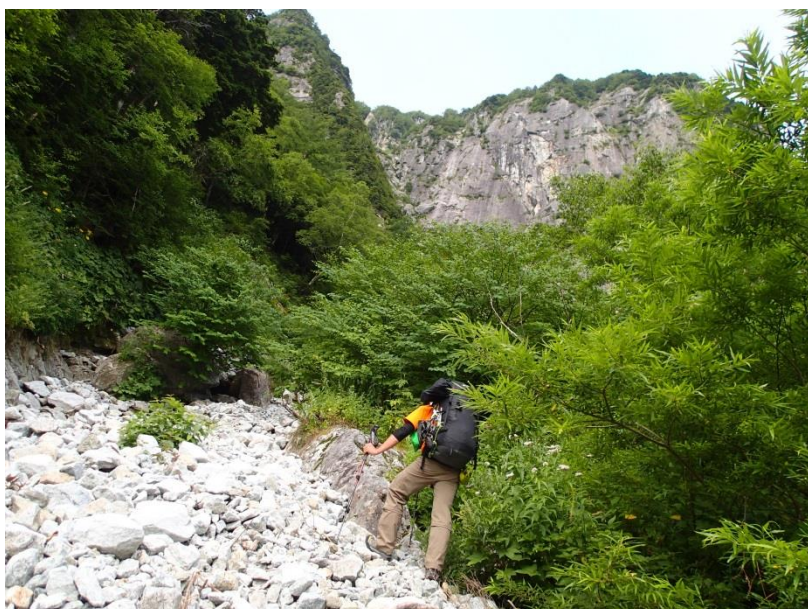
渡渉を終えると1ルンゼ押し出しが目の前にあった。

全く間違えようのない1ルンゼ押し出しをそのまま詰めていく。

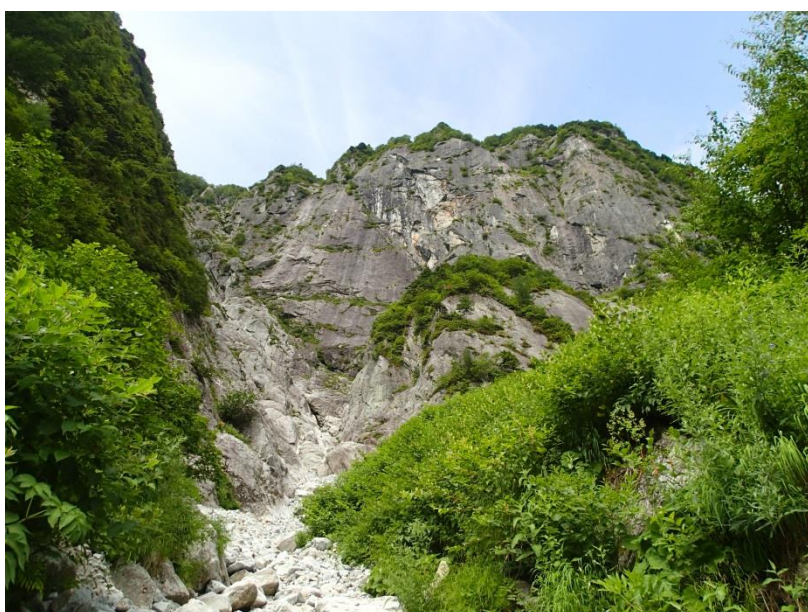


<ガレ場の登り>

ガレ場の登りで足場が悪い。1時間ほど登ると目の前に T4 尾根とすぐわかる顕著な尾根が出てきた。早く取り付きたいが、ザックの重さと暑さでなかなかペースが上がらない。



<景色が開けてくる>



<T4 尾根が見えてくる>

T4 尾根の取り付け 10m 前に少し悪い大岩の乗り越しがあった。

T4 取り付けにはリングボルトやフィックスロープがあり、分かりやすい。

今回は重い水は荷揚げを行う予定だったので、ロープバックに水を入れて荷揚げの準備も完了した。

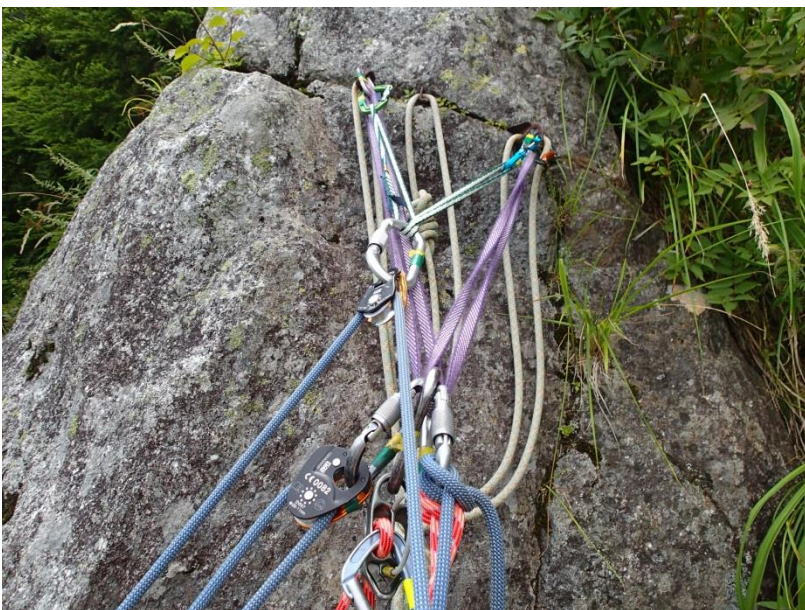
T4 尾根 1P 目 (SKD) 30m



<少し脆いので気を付けて登る>

階段のようなところを登っていくと、所々に残置ハーケンがあったがかなり古くグラついているものが多かったので、カムで支点を取っていく。終了点はハンガーボルトが打ってあるので分かりやすい。

2P 目 (SGY) 30m



<荷揚げのため3/1システムを構築>

クラックの入った凹角を登っていく。途中 3m ぐらいの垂壁が現れるが細かいホールドを拾っていく。

草付きの手前にビレ一点があり、そこで T4 の登攀は終わるが、その後は木登りと草付きを 2P ぐらいロープを伸ばす。最後に III 級ぐらいの凹角が出てくるが、ホールドが少なく苦労した。

荷揚げは傾斜面だとなかなか上がって来ないので、セカンドがひっかかっているのを外しながら登ってくるので、予定より時間がかかった。

13 時 30 分ごろ T4 テラスに到着。思ったより狭い感じのテラスだった。

目の前に雲稜ルート of 1P 目の凹角がある。上部はかぶっているようで少し悪そうだった。

今回は東稜を登るのでT2までトラバースを行う。T4より一段下がった草付きをT2に向けてトラバース  
途中足場の切れている所はフィックスロープが設置されている。T3からの登りも古いがフィックスロー  
プが設置されていて、一応セルフを取りながら進む。



<フィックスをたどる>

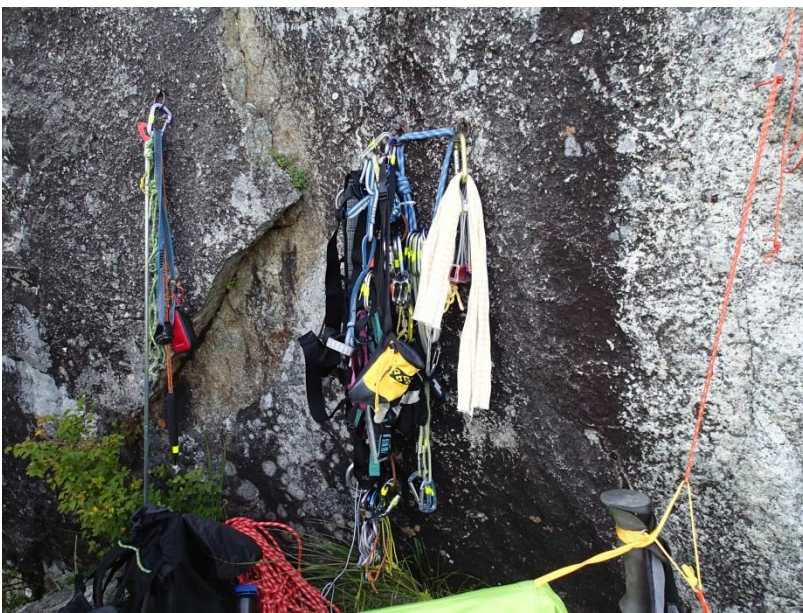


<T2に登る SKD が見える>

T2のテラスはツェルトが1張ぎりぎりのテラスだった。



<貸し切りのテラス>

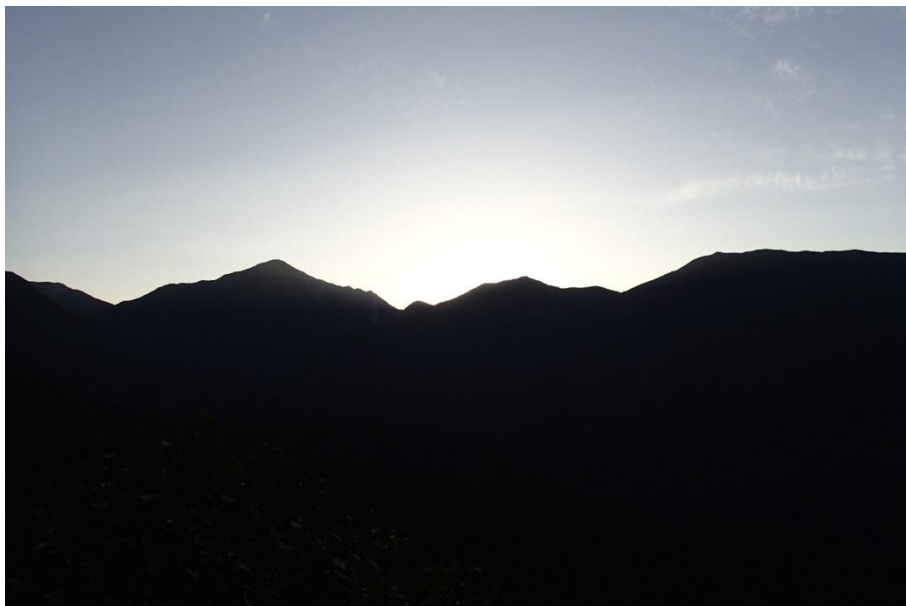


<ギアの整理を行う>

今回は私どもだけで貸し切りだった。雄大な北アルプスの稜線が横尾谷を挟んで見える。東稜の取り付きまで0歩の所にツェルトを張り、初日はここで幕営することにした。貴重な水を大切に使い、明日以降の行動分を考えながら使ったが、少し予定より減っていることが気になった。雲一つない雄大な景色を見ながらの夕食。ここまで登ってきた人しか味わえない景色、アルパインをされていて良かったと心から思う。夜も寒くなく、快適に一晩を過ごすことができた。

8月12日(金)

5時に起きて朝食をしっかりとる。登攀準備をして当然のことながら一番手で登攀が開始！



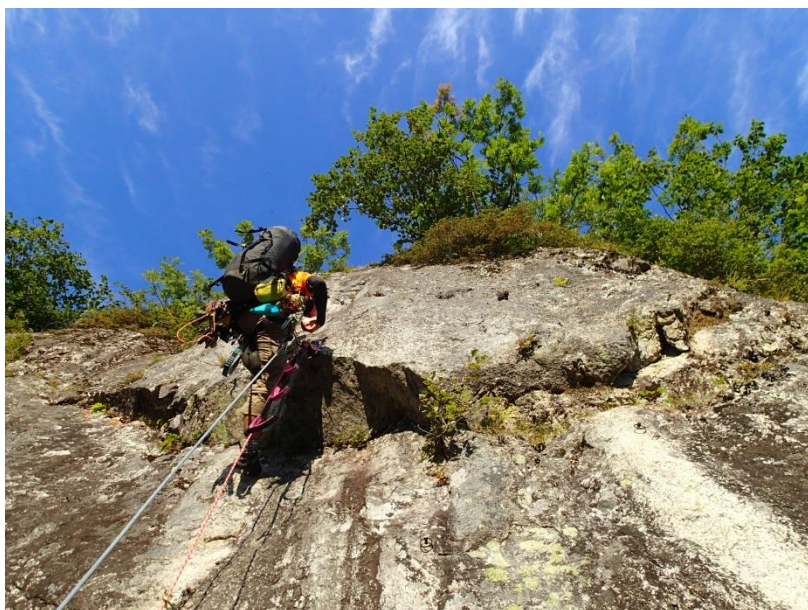
<朝日に力をもらう>

東稜1P 目 (SKD) 30m

単純な人口で 5m ぐらい上がると小ハングをこえる。



<朝一なので身体が固い>



<少しのハングだがつらく感じる>

支点は古いハーケンやヘッドの飛んだリングボルトなどだった。古い細引きがぶら下がっていたり、シュ

リングがぶら下がっていたりして、物を選んだら快適な登攀ができる。しかし、触ったらちぎれるようなものもあるので、支点の確認がかなり必要になっていた。当然落ちれば止まらない恐怖と闘い、その恐怖も楽しみながらロープを伸ばしていく。

2P 目(SGY)



< 傾斜が増ってきて快適なアブミの架け替えで登る >

ほぼ垂直になり支点も近く快適な登攀である。

荷揚げの荷物もひっかかることなく、セカンドより早く上がる。



< 下はかなりの高度感で快適 >





<雲稜を登るクライマー>

3P 目 (SKD)

トラバースからフリーで登るが、支点がほとんどなく気持ちが悪い。  
草付きで滑りそうだったら、強引に登るとカムが使えるクラックがある。  
残置支点は少ないが、カム・ナッツで支点が作れるので安心できる。



<トラバースから凹角を登る>



<ランペの登り>

4P 目 (SGY)

トラバースから垂壁を登り、小ハングを乗り越す。



<ピナクルを目指してトラバースを行う>



<快適な垂壁を登る>

5P 目 (SKD)



<ピナクルをフリーで乗り越す>



<垂壁からフリーで終了点へ>

終了点には懸垂用のリングが設置されていた。

終了点からはⅢ級ぐらいの傾斜面が続いているので、安全地帯までロープを伸ばすことにした。  
50m いっぱいまで伸ばすと大木に残置が残っていた。



<大木に残置がある>

これからは、50m いったいごとに残置が設置されている。

途中からフィックスが出てくるが、これは以前屏風で救出があったときの救助隊が設置したものだと思う。ありがたく使わせていただき、途中からフィックスから外れ踏み後をたどる。

安全地帯まで行き、ロープを直す。

これから屏風の頭まで藪漕ぎとの闘いだっただ。



<自然の行動食>

長い…長い…歩いてても藪漕ぎが終わらない。

行くべき道はほぼ間違えることのないが、不明瞭になることもあるが、よく見れば分かる。

枝がザックにひっかかりスピードが出ないが、明るいうちに一般道までたどり着かなければならないので、気持ちだけで足を進める。



<やっと屏風の頭につく>

屏風の頭は分かりやすく、大ケルンが設置されている。

ここからは、屏風コルへ向けて一般道をひた走る。

ここまでかなり暑く、二人とも軽い脱水症状になっているようだった。

きちんと水分は取っていると思っていたが、思った以上に足りていないようだった。

残りの水の量では、このまま北尾根に進むことはできないので、今回は徳澤に下降することにした。



<屏風の頭の大ケルン>



<一般道の安心感がある>

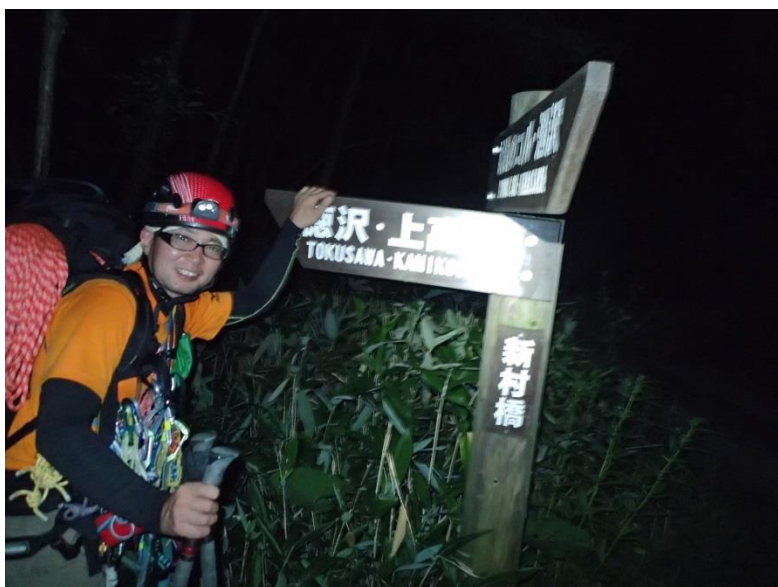


<砂利が乗っているので滑りやすい>



<屏風のコルへ到着>

ここから徳澤への下降は一般道だが、だらだらと長い。  
残業をしながらゆっくり下降する。



<残業もあと少し…>

徳澤までの梓川添いを今回の山行の反省をしながら下る。  
日が変わる前には徳澤に着けたので、ツェルトを張り静かに夕食をとる。  
芝生のフカフカな寝床に少し、降りてきてしまった苦い気持ちを感じながら就寝。



<いつか再挑戦を行う気持ちが強い>